

調和理論における面積効果を検討し、Scalar momentの比と色調和の関係について報告した。

そこで今回は、色調和を判定する際のもう1つの尺度として述べられている美度について検討し、色調和の構成要因を追求したいと考えた。

2. 試料は既報の面積効果の検討に用いたものと同様である。つまり、基準色に対し配色色票を類似帯、対比帯、第1不調和帯、第2不調和帯より2色ずつ選んだ。

それらのScalar momentの比を種々変化させて美度を算出した。そして前報の面積効果との関連性を調べ、さらに被験者50名による感覚比較を行ない、その実験結果と比較検討した。

3. 美度と面積効果の関連性ではScalar momentの比が整数比、中間比にかかわらず、基準色を1とした場合、配合数値が1に近いほど美度が高い。とくに調和帯の配色においては美度0.5以上の値が得られ、これらの場合、感覚比較実験においてもよい配色と判定された。

この事実を被服の配色上に応用すれば、色調和の効果を一層あげると考えられる。

B-87 色調和について（第3報）

—美度と面積効果—

梶山女大家政 ○中保 淑子
梶山 藤子

1. 色調和の研究は従来より多くの人々によって行なわれているが、筆者らはすでに Moon & Spencer の色